

段ボールBC品揃え

米IPの国内総代理店に

ファイバードラムの国内トップメーカーである太陽シールパック（和歌山市）は産業用包装資材事業の拡大を図る。このほど米大手製紙メーカーのインターナショナル・ペーパー（IP）が手がける段ボール製コンテナ「スペースクラフト」の国内総代理店になったもので、取扱量の拡大により積極攻勢をかけていく。今期（2025年8月21日～26年8月20日）、スペースクラフトで2億円の売り上げ目標を立てつつ、食品分野への販路拡大など早期に3億円まで伸ばす計画だ。

食品・化学など開拓

太陽シールパックはファイバードラムの草分けでフレキシブルコンテナや液体コンテナ、ドラム缶、パレットといった産業用包装資材を幅広く展開している。スペースクラフトもインターナショナル・ペーパー・ジャパン（IPJ）を通じて代理店として国内ユーザーに販売してきた。

スペースクラフトはIPが開発した段ボールIBCで、約33kgと軽量。シームレス8層構造の段ボールが20寸以上の耐圧力を保持、充填状態で4

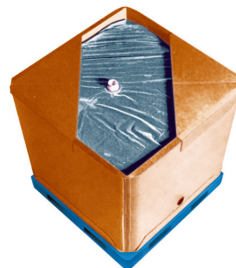
段まで積み重ねられる。未使用時は6分の1以下に折り畳める。箱本体であるスリーブと内袋を収めたカセット、箱の外側に被せるシユラウド、蓋であるキャップで構成され、返却や洗浄、修理不要のワンウェイ型で、段ボール外装はリサイクル

可能。液体用（1000L、800L）と粉体用（1000L）があり、3層の内袋は用途に合わせガスバリアタイプも揃う。

この間、IPJがスペースクラフトの国内販売およびサービスを行ってきたが、今春、IPが販

売体制を見直すなか、長年の実績と知見、安定供給体制、提案力に優れる太陽シールパックに継承、今夏に総代理店になった。売り上げ規模はIPJ分が加わり、約1億5000万円に拡大、今期は2億円を目指す。

今後は引き続きより取引が少なかった食品業界への販路を生かすほか、得意とする化学関連向けにもスペースクラフトを紹介、攻勢をかける方針で、興味を持つユーザーも増えているという。今後販売体制を高度化し早期に3億円まで拡大する。また既存製品についても食品分野に積極展開、開拓するなど相乗効果を期待する。



軽量で耐圧力20t以上。未使用時には折り畳める